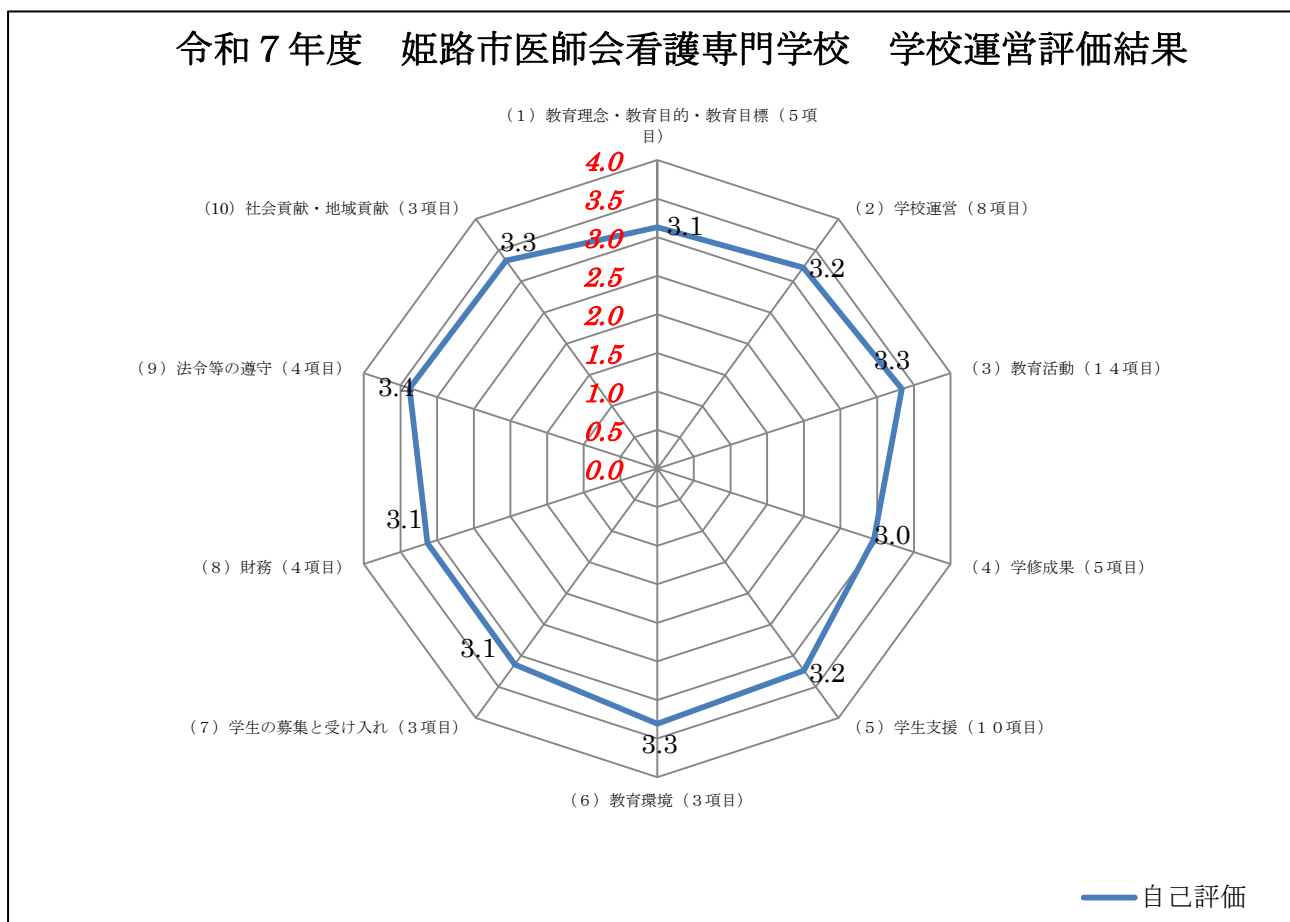


## 学校評価（自己評価・学校関係者評価）

### 1 学校運営評価結果（令和7年度）

評価項目	自己評価
(1) 教育理念・教育目的・教育目標（5項目）	3.1
(2) 学校運営（8項目）	3.2
(3) 教育活動（14項目）	3.3
(4) 学修成果（5項目）	3.0
(5) 学生支援（10項目）	3.2
(6) 教育環境（3項目）	3.3
(7) 学生の募集と受け入れ（3項目）	3.1
(8) 財務（4項目）	3.1
(9) 法令等の遵守（4項目）	3.4
(10) 社会貢献・地域貢献（3項目）	3.3
平均	3.2



## 2 授業評価結果（令和7年度）

学生による授業評価アンケートにより、

- ・授業は17項目について4段階評価
- ・臨地実習は42項目について5段階評価

（新カリキュラム）

【基礎分野】	15 講師	各項目 3.1～4.0
【専門基礎分野】	42 講師	各項目 3.2～4.0
【専門分野】	81 講師	各項目 2.4～4.0
【臨地実習】	134 グループ	各項目 1.4～5.0

## 3 学校関係者評価

令和8年4月23日（木）に、学校関係者評価委員会（教育関係者、実習病院関係者、卒業生、地域住民で構成）を開催し、令和7年度自己評価や授業評価結果に関して意見を聴取した。

（主な意見）

- ・非常に詳細なアンケート資料だが、実習最終日の多忙な時期に42項目もの回答を求めるのは、学生にとって大きな負担ではないか。ネット活用は検討してはどうか。
- ・現場では団塊の世代の退職により看護師不足が深刻化している。定員を減らすことへの危機感はあるが、学校だけの問題ではなく医療界全体の課題だと感じる。
- ・社会人はやる気も高い。母子家庭の方などへの支援や、社会人卒の活用をさらに進めるべきではないか。
- ・今後、各病院で看護師の取り合いになる。なるべく看護師が姫路市内に残っていただける取り組みをしていただければ有難い。
- ・定員数を維持すると、学生の質の格差ができてしまう。40名にすることは止むを得ないと考える。
- ・3年で卒業できるメリットや、大学に比べて実習密度が濃いこと、また特定の病院系列ではないため多様な就職先を選べる点をもっとアピールすべきである。4年かけて看護師になるよりは3年で看護師になるメリットは多くある。高校からもアピールしてもらいたい。過去は数年連続、国家試験100%合格であった。大学全入時代だが、高額な学費を払って4年通うよりも、3年でしっかり指導を受け、国家試験を突破できる本校の価値を高校の先生に伝えるべきではないか。
- ・3年で卒業できるのは大きなメリットである。実習の数も多い。様々な病院が見られて、就職に繋げることができるのが大きなメリットではないか。

#### 4 今後の改善方策

- ・学校の将来構想が明確に描けていないという課題に対し、看護学校運営委員会や姫路市との協議を通じて、具体的な将来構想を策定していく。学生や保護者への周知を徹底するため、ホームページや学校行事を活用し、周知を図る。
- ・教育活動等に関する情報公開の不足を補うため、ホームページや SNS を活用し、情報公開に努める。ICT の活用によるさらなる業務改善を推進する。その一環として、令和 8 年 4 月より「学生出席管理システム」を導入する。看護教員の待遇改善や人員不足解消のため、本会の企画人事室に対し、処遇改善や人員確保に関する要望を継続的に行っていく。
- ・質の高い教員の確保が困難な状況に鑑み、企画人事室の協力に加え、ナースセンターや市内実習施設と緊密に連携し、優秀な人材および非常勤講師の確保に努める。教員の指導力および資質向上のため、研修内容を充実させ、継続的な能力開発に取り組む。新カリキュラムの運用状況を踏まえ、授業時間数や内容の見直しを行い、令和 8 年度より施行する。また、入学前教育の充実を目的とした eラーニングシステムを導入する。
- ・合格率の低下傾向に対し、試験結果の分析に基づいた受験対策の検証・充実を図る。なお、令和 7 年度は模試試験結果分析や補講を計画的に実施し、第 115 回看護師国家試験の合格率は全国平均を上回る成果を得た。退学者の増加抑制に向け、入試における学力・資質の的確な見極めと、合否判定基準の適正化を推進する。
- ・学生の主体的な学習姿勢を促すため、授業の工夫や学習支援の充実を図る。あわせて、キャリア支援の体制を強化する。高等教育の修学支援新制度や教育訓練給付制度の周知に努める。
- ・築 21 年が経過し、建物・設備の劣化が進んでいる。令和 9 年度以降の大規模改修に向け、姫路市と予算確保の協議を行う。
- ・経済的に困窮している学生への支援措置を整備済（修学支援新制度の対象校、専門実践教育訓練の講座指定）である。学校推薦型選抜入試指定校制や社会人推薦入試の導入に加え、令和 8 年度学生募集には総合型選抜入試を新たに導入した。近年の少子化の進展、大学志向の顕在化等を背景とした志願者数の減少等を受けて、令和 9 年度入学定員を 40 名とする方針を決定している。
- ・学生数減少に伴う収支不足に対応するため、徹底した経費削減に努める。令和 6、7 年度入学生からの授業料増額に加え、令和 9 年度入学生よりさらなる改定を予定している。
- ・学校教育法改正に伴い、令和 8 年度以降、専修学校の自己評価項目を大学と同等の項目へ見直す。個人情報保護や懲戒に関する規程の整備を進めるとともに、令和 7 年度にはハラスメント防止規程を新たに制定し、

令和8年4月1日より施行している。

- 学生の意識低下に対し、活動の意義を説明し理解を得ることで、ボランティア活動を継続する。保護者へも意義を伝え、家庭での支援を依頼する。姫路城マラソンへのボランティア派遣や、地元中学校のトライアルウィーク事業への協力等、地域連携活動を継続して実施する。